IDECセミナー「公教育と教師の未来を創る ～米国、日本、ザンビアからの警鐘と希望～」

〇教師を目指す方、日本の教育の未来、国際協力の可能性を考えたい方、必見です。

〇『崩壊するアメリカの公教育　日本への警告』（岩波書店）の著者である鈴木大裕氏による基調講演を行います。

〇ザンビアでの授業研究を支援する馬場卓也氏（国際協力研究科）、大阪市の教育改革を研究する滝沢潤氏（教育学研究科）、を交えたパネルディスカッションで、日本、アメリカ、ザンビアの視座から国境を越えた活発な議論を展開します。

日時:2016年12月19日(月)18:00開始　入場無料

会場:学生プラザ1階西側

18:00～19:00　鈴木氏による基調講演

19:00～20:00　パネルディスカッション

20:00～20:30　質疑応答

主催：広島大学大学院国際協力研究科

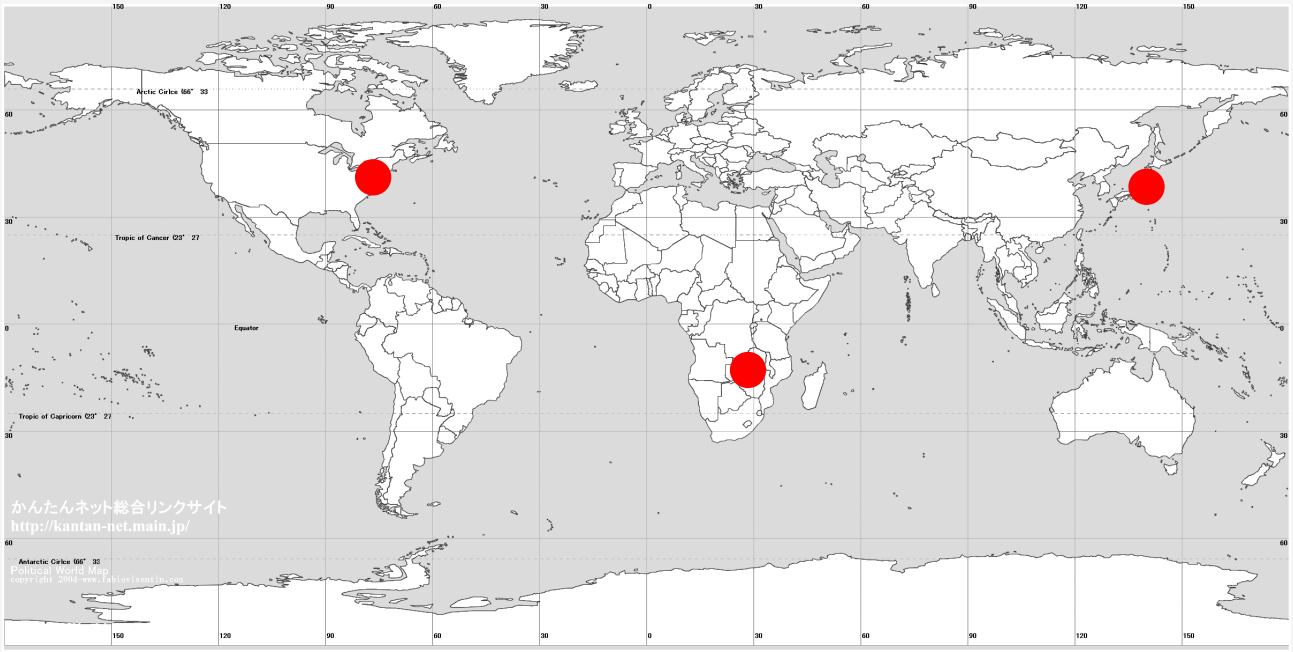
問い合わせ先：澁谷和朗特任准教授（kshibuya@hiroshima-u.ac.jp, 082-424-6922）

鈴木大裕

1973年神奈川県生まれ。

高知県土佐郡土佐町　学校・行政コーディネーター、米国コロンビア大学ティーチャーズカレッジ博士課程在籍。

コロンビア大学教育大学院博士課程在籍中の教育学研究者。16歳でニューハンプシャー州の全寮制高校に留学。そこでの教育に衝撃を受け、日本の教育改革を志す。1997年コールゲート大学教育学部卒（成績優秀者）、1999年スタンフォード大学教育大学院修了（教育学修士）。日本に帰国し、2002年から2008年まで千葉市の公立中学校に英語教諭として勤務。2008年に再び米国に渡り、フルブライト奨学生としてコロンビア大学大学院博士課程に入学。米国を代表する教育哲学者、故マキシン・グリーン女史の助手や講師を務める一方で、東日本大震災の復興支援団体や教育アクティビストネットワークを立ち上げ、研究者の立場から社会問題に積極的に関わり、発信している。近著に『崩壊するアメリカの公教育　日本への警告』。



馬場　卓也

1961年大阪生まれ。

広島大学大学院国際協力研究科・研究科長・教授。

1984年大学を卒業後、JICA青年海外協力隊員としてフィリピンに派遣。その後大阪府高校教員、JICA専門家を経て、2001年より広島大学大学院国際協力研究科（IDEC）で勤務を開始し、現在に至る。IDECは2002年からJICAと連携して、修士号取得と青年海外協力隊としての派遣を実現させる「ザンビアプログラム」を実施。また、ザンビアでは2005年から授業研究を導入し、教材研究チームという中核人材の養成と全国的な教育の質的改善をめざすJICA支援プロジェクトが動いており、ザンビアからの留学生の育成、短期研修への指導、現地での専門家としての指導にあたってきた。このように内発性の視点を重視し、日本人学生のみならず、ザンビア人の育成に努めてきた。

滝沢　潤

1971年長野県生まれ

広島大学大学院教育学研究科・准教授。専門は教育行政学、教育制度学。博士（教育学）。

主な著書・論文

『学校評価システムの展開に関する実証的研究』（玉川大学出版部、2013年、共著）、「言語マイノリティの平等な教育機会の保障における学校選択の可能性 ーカリフォルニア州における双方向イマージョン・プログラム実施校の検討ー」（『日本教育行政学会年報』40、2014年）、「大阪市教育委員会における「熟議『学校選択制』」の検討　-「教育の民意」の形成における熟議の可能性」（日本教育行政学会編『学会創立50周年記念　教育行政学研究と教育行政改革の軌跡と展望』、2016年）など。